

君の知らない物語

いつもどおりのある日の事
君は突然立ち上がり言った
「今夜星を見に行こう」

「たまには良いこと言うんだね」
なんてみんなして言って笑った
明かりもない道を
バカみたいにはしゃいで歩いた
抱え込んだ孤独や不安に
押しつぶされないように

真っ暗な世界から見上げた
夜空は星が降るようで

いつからだろう 君の事を
追いかける私がいた
どうかお願い
驚かないで聞いてよ
私のこの想いを

「あれがデネブ、アルタイル、ベガ」
君は指さす夏の大きな三角
覚えて空を見る
やっと見つけた織姫様
だけどどこだろう彦星様
これじゃひとりぼっち

楽しげなひとつ隣の君
私は何も言えなくて

本当はずっと君の事を

「化物語」のED

いつも通り as always.

明かり light.

押しつぶす to squash; to crush.

どこかでわかっていた
見^みつかったって
届^{とど}きはしない
だめだよ 泣^なかないで
そう言^いい聞^きかせた

つよ わたし おくびょう
強^{つよ}がる私は臆^{おくびょう}病^{びょう}で
きょうみ
興^{きょうみ}味^みがないようなふりをしてた
だけど
むね さ いた ま
胸^{むね}を刺^さす痛^{いた}みは増^ましてく
ああそうか 好^すきになるって
こ^{こと}ういう事^{こと}なんだね

どうしたい?言^いってごらん
こころ こえ
心^{こころ}の聲^{こえ}がする
きみ となり
君^{きみ}の隣^{となり}がいい
しんじつ ざんこく
真^{しんじつ}実^{じつ}は残^{ざんこく}酷^{こく}だ

い
言^いわなかった
い
言^いえなかった
に ど もど
二^に度^どと戻^{もど}れない

なつ ひ
あ^{なつ}の夏^ひの日
ほし
きらめく星^{ほし}
いま おも だ
今^{いま}でも思^{おも}い出^だせるよ
わら かお
笑^{わら}った顔^{かお}も
おこ かお
怒^{おこ}った顔^{かお}も
だいす
大^{だいす}好^すきでした
おかしいよね
わかってたのに
きみ し
君^{きみ}の知^しらない
わたし ひみつ
私^{わたし}だけ^{ひみつ}の秘^{みつ}密^{みつ}

よる こ
夜を越えて
とお おも で きみ
遠い思い出の君が
ゆび
指をさす
む じ ゃ き こえ
無邪気な声で